

ですとのこと。困つて当会事務局長に相談したところ、パワーポイントが入つているパソコンを準備できた。

第3の演題・講師紹介等の看板の制作は、「青森県偕行会主催防衛講話」の看板一枚でも、ホテルに依頼した場合は約2万円の費用となり、演題・講師紹介の看板と合わせると4万円となる。そもそも会場として使用しないホテルで制作してくれるかも心配された。会場となる県民福祉プラザにその機材はなく、青森地方協力本部が最近その機材を購入したとの情報を得て依頼したところ快諾を得た。講演会の開催は、準備から実施、懇親会まで大変な事業であり、組織を編成して対応する必要があるとの助言を受けたが、偕行会員は県隊友会長でもある堀内会員、陸自75期の末永会員、田中会員が青森市在住であり、隊友会は東青支部長である外崎会員始め支部の会員、家族会も同様青森市内の会員の協力に加えて青森駐屯地修親会の絶大な支援を得て実現できた講演会であった。

館と隊員クラブ「はなの舞」において防衛講話及び意見交換会を開催した。

第1部の防衛講話は、東北方面総監幕僚副長今井健太郎将補が、「我が国を取り巻く安全保障環境、将来の自衛隊の在り方、東北方面隊の現状及び取組」の演題で、会員20名が聴講し、安全保障環境、最近の陸上自衛隊及び東北方面隊の現状と今後の防衛力の体制、取組について認識することができた。

防衛講話はコロナ前の令和元年12月に開催以来5年ぶりの実施で、質疑応答では、会員からの質問が相次ぎ、予定時間は15分もオーバーする盛況であった。



宮城県偕行会防衛講話開催 現職隊員との意見交換会開催

宮城県偕行会事務局長 佐藤源一

第2部の意見交換会は、東北方面総監幕僚長大野陸将補、自衛隊仙台病院長中岸陸将補、防衛講話された今井陸将補、多賀城・霞目・大和各駐屯地司令、船岡



科)は、12月14日(土)仙台駐屯地防衛衛

駐屯地司令代理、宮城地方協力本部長、仙台駐屯地業務隊長、総監部総務部長、総務課長の11名と会員20名が参加して開催された。

なお、宮城県偕行会は年2回(3月の総会時と12月)現職隊員との意見交換会を開催して陸修偕行社と宮城県偕行会の活動を広めている。